

令和5(2023)年度 河内農業振興事務所の運営方針について

令和5(2023)年4月6日

河内農業振興事務所長 阿部 恒久

地域をつなぐ 未来につなぐ “かわちの農業・農村” を目指して

農業・農村をめぐる情勢や課題の変化を的確に捉え、人（担う者の確保・育成）、農地（効率的な利用）、作物（収益力の獲得）の視点を持って、成長産業として持続的に発展する都市近郊型農業の実現を目指します。

（重点的に取り組む事業及び課題）

1 とちぎ広域営農システムの構築

2か所のモデル地区で進めてきた課題解決の議論を踏まえ、地域計画や多面活動と一体的に持続可能な地域営農モデルの早期実現に取り組みます。

- 上河内地区 農地の集積・集約ルールへの定着に向けた合意形成
担い手の組織化と収益力のある水田輪作
- 上郷地区 人・農地・作物の調和を図る将来ビジョンのブラッシュアップ

2 水田農業を高度に担う大規模経営体の育成

低コスト技術のパッケージ化や合理的な農地利用の実証と併せて、スマート農業技術による飛躍的な生産効率の向上を推進し、大規模土地利用型経営体の収益力強化を図ります。

- 米の超低コスト生産体系の確立（1組織）
- 農地バンク事業活用による地域集積の推進（2地区）
- 大豆ブロックローテーションモデル地区の設置（1地区）
- スマート農業技術を導入する水田経営体の育成（3経営体）

3 「園芸大国とちぎづくり」の推進

新たな技術や品種の導入による次世代型施設園芸産地の形成に加え、供給力と収益力の高い土地利用型園芸の産地づくりを実現するため、産地密着の支援活動を展開します。

- トマト抑制長期作型導入の推進（186a）
- とちあいかの作付面積拡大推進（35ha）
- とちぎ農業マイスターによる研修受入体制の確保（10名）
- 新たな土地利用型園芸産地づくり構想策定の支援（1地区）

4 農業経営リスクや営農環境変化への的確な対応

気象災害や家畜伝染病の増加、燃油・資材価格の高騰等の経営リスクや、カーボンニュートラル社会の実現に向けたグリーン農業への転換などに、関係者一体となって取り組みます。

- 集合施設等の再点検を兼ねた家畜防疫演習の開催（1回）
- 農業資材等価格高騰対策会議の開催（4回）
- 農作物等の盗難防止対策に係る研修会の開催（2回）
- とちぎグリーン農業推進方針に基づく取組計画の策定推進
（200計画）

5 農業農村整備の推進

世代を超えて地域農業を持続可能にする農地整備事業を進めるとともに、農村地域の防災・減災力を高めるための農業用水利施設の整備や防災重点農業用ため池の防災対策に取り組みます。

- 農地整備の推進（7地区）
- 農業水利施設の更新整備（5地区）
- 防災重点農業用ため池対策の実施（7カ所）